

第54回神奈川建築コンクール 一般建築物部門 審査総評 審査委員 小滝 一正

今年度の応募件数は40件で例年よりやや少なかった。施設種別では商業施設が増加、生活施設と厚生施設が減少した。教育施設が多いのは例年の現象である。第1次選考（書類審査）で投票と討論を経て現地審査対象作品16件を選んだ後、4日間の現地審査を行なった。その結果を受けて第2次選考で同じく投票と討論を行い、最優秀賞1件、優秀賞7件、アピール賞2件を選定した。賞の性格からみて敢て格づけする必要はないとし、今年度から奨励賞はなくした。なお現地審査で都合により内部視察ができず第2次選考対象外とした作品があったのは残念だった。以下、受賞作品の主な評価ポイントを記して総評としたい。

最優秀賞は「七沢希望の丘初等学校」である。この学校独特の教育思想に対して、七沢の里山に溶け込んで建つ環境建築が共鳴した秀作である。（詳細については最優秀選評参照）

次いで優秀賞について記す。「慶應義塾日吉キャンパス協生館」および「慶應義塾大学日吉第4校舎独立館」はキャンパス入り口の両側を占めて大学の顔を形成している。「協生館」は地下1階の水泳場をはじめ下層に開放型諸施設を、上層に大学院をもつ複合施設であるが、そうした複合機能を回廊吹き抜け空間で高度に統合するのに成功している。回廊をめくりつつ見える水泳場、講堂の舞台を開け放つと外部の緑とつながるなど、内外空間の呼応と多様なコミュニケーションを誘発するしかけが楽しい。また前面の陸上競技場とその向こうの圧倒的な緑と対峙してまとまった外部環境を形成している。「独立館」は大中小の教室群からなる講義棟で、2群の教室が吹き抜けおよび中庭の周囲に配され明快な構成である。何よりも従来は崖上で背を向けていた綱島街道と日吉駅に対して桜並木アプローチを連ねて町とつながげた功績は大きい。

「おざわ歯科」は住宅地の歯科医院の増改築で、既存建物と既存敷地全体を巧みに利用している点が高く評価された。27メートルの長く高いロビーで全体をまとめつつ、高度な歯科治療技術の提供に対比して塗り壁からなる穏やかな空間ができあがっている。

「川崎市立御幸小学校」は伝統校の再開発であるが、新しい多様な学習空間を提案しつつ学年オープンスペースにデン・教材室・手洗いなどを設けて適度に分節化している。一部に残す既存RC普通教室棟を鉄骨構造のバルコニーおよびオープンスペースなどで挟んでエクспанションジョイントなしの耐震補強を施し空間のスムーズな連続性を確保して、計画に即した耐震補強のあり方を示したことに注目したい。

「神奈川工科大学学生サービス棟・学生プラザ」は、学生サービス棟を含めてここ5年間に進められたキャンパス再開発の集大成である。建設時期や設計者の異なる優れた建築群の中央に広々とした学生プラザを設け、かつ丹沢山系から中津川へつながる東西軸を強調する並木の

プロムナードと既存図書館をシンボルとした南北軸を交差させて、全く新しいキャンパスを出現させた。さまざまなスケールのランドスケープデザインも好ましい。

「シンクロン本社ビル」は世界有数の真空薄膜形成装置（カメラ・眼鏡レンズや光学ディスクなどに薄膜を蒸着させて光学性能を向上させる装置）のメーカーの本社ビル。装置から生み出される製品の透過性と反射性をデザインモチーフとして外皮を表現し、ダブルスキンカーテンウォールの上に装置した電動換気パネルや太陽光追尾型電動ブラインド等により大幅に空調負荷を軽減させるなど、小規模ビルながら示唆に富んだ作品である。

「AGCモノづくり研修センター宿泊棟」は旭硝子の創立100周年記念事業のひとつである100人の研修者用宿泊施設。100をキーワードとするデザインが展開され、100の窓をもつファサードにカラーガラスやレーザー回折ガラスを嵌め込んで100色を用いて殺風景な工業地域に個性的な風景を出現させた。またインテリアでは日本の伝統色100色を抽出してサイン計画やカラースキームに用いた。工期の短縮も特筆すべきである。

アピール賞は「京急高架下文化芸術活動スタジオ・黄金スタジオ」および「同・日ノ出スタジオ」の2件を「環境への配慮」に優れた作品として同時授賞とした。ともにアーティストの制作および展示のための建物である。地域住民・京急・横浜市および建築学生を含む設計者らの協同によって、風俗店などが撤去されて閑散としていた町の環境を一新したことが高い評価を得た。運営も地元住民のNPO法人が行なっている。町に対してとかく異質になりがちな鉄道高架下利用の新しい試みでもある。